

2018/3/9 23:15 神戸新聞NEXT

「浜風の家」 入札不調 3月末までに再入札 芦屋



全国からの寄付で建てられた
「浜風の家」＝芦屋市浜風町
(撮影・三津山朋彦)



阪神・淡路大震災で傷ついた子どもたちを見守り続け、今年1月に閉館した芦屋市の「浜風の家」が立地する県有地を売却する一般競争入札が9日、兵庫県庁であり、4者が参加したが、不調に終わった。県は3月末までに再度、入札手続きをする。

浜風の家を運営し存続を目指した社会福祉法人「のぞみ会」を支援する県内企業も応札。県や関係者によると、この日2回の入札が行われたが、県が定める予定価格（最低売却価格）に満たなかったり、書類に不備があったりし、不成立になったという。

浜風の家は、直木賞作家の故藤本義一さんらが設立を呼び掛け、10万人以上から2億円近くの寄付が集まった。震災から4年後の1999年1月にオープン。今年1月17日に閉館するまでの19年間、子どものケアと児童館事業に取り組み、延べ約20万人が利用した。

県は近く入札参加者を募り、施設と児童館事業の存廃は再び、入札結果に委ねられる。のぞみ会の藤本統紀子理事長（83）は「子どもたちの施設がなくならないよう、とことんやりたい」と次回の落札に期待した。（中島摩子、初鹿野俊）